



旭丘小だより

練馬区立旭丘小学校
学校だより 2月号
平成31年1月31日
発行責任者：野田 豊



「2月」に寄せて

副校長 青木千恵

去る1月20日は大寒でした。しかし、この寒中もまもなく訪れる節分の日で終了します。翌日の立春は、春の気配が立ち始める日とされています。窓から入る日差しが輝きを増しているように感じたり、木々の芽が「もう少しあたたかくなれば、芽吹きますよ。」と語りかけているように感じたりすることでしょう。子供たちにとっても3学期2月は、次の学年や中学校への進級・進学の4月という節目を迎えるための心構えをつくる大切な時期です。子供たちにこれまでの自分、今日これからの自分、そして4月からの自分の姿を具体的にイメージしてほしいと願っています。人が成長するとは、過去・現在・未来の自分を意識できるようになるということだと考えます。生きていく中で、失敗があったとしても、前を向いて次に向かえるような力となり、予想外の出来事や自分と違う価値観をもつ人に出会ったとしても、柔軟に対応できるようになっていくものと考えます。「2月は逃げる」という言葉もありますが、ぜひ、この2月を逃さず大切に過ごしてほしいです。

さて、大寒翌日の1月21日から始まった旭丘小学校の持久走月間も終盤を迎えています。この持久走月間にあたり、子供たち一人一人にカードが配られました。各自走った分だけ色を塗っていき、自分がどれだけがんばったか、わかるようになっていきます。暦の上では春を迎えるとはいえ、まだまだ厳しい寒さが続きます。寒い中では何事も億劫になってしまうくらいがあります。寒い中で走るということも、ひとつ。そう簡単なことではありません。ですから、このカードには、寒い中走る子供たちが、自分自身のできたことを見て取りながら、目標に向かってがんばれるようにと思いが込められています。持久走大会の目的は「健康な体を作ること」「自ら運動に親しもうとする態度を育てること」そして、「自分の目標を立て、それに向けて努力する態度と意欲を育てること」にあります。特に、3つめの「自分の目標を立て、それに向けて努力する」ことがとても大切だと考えています。寒さの厳しい日でも、休み時間音楽が流れると元気に走る子供たちの姿があります。走りを重ねる毎に足運びのリズムがよくなっている姿を見掛けます。何よりそれぞれが自分の目標に向かって頑張る姿は、とても素敵です。「疾風に勁草を知る」のごとく、厳しい寒さの中でこそ、ここ一番の力が発揮されるのではないのでしょうか。2月9日(土)の持久走大会では、心からの声援を皆様とともに送りたいと思います。

子供たちがこれまでの自分、今日これからの自分、そして4月からの自分を見つめ、一歩前へ進んでいけるよう、保護者・地域の皆様、引き続きどうぞお力添えください。

